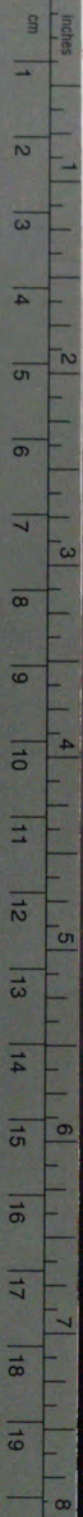


Kodak Gray Scale

A 1 2 3 4 5 6 M 8 9 10 11 12 13 14 15 B 17 18 19



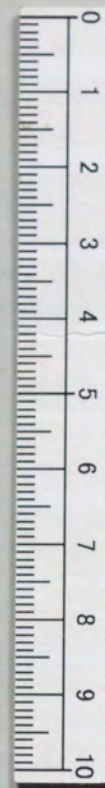
© Kodak, 2007 TM: Kodak



Kodak Color Control Patches

Blue Cyan Green Yellow Red Magenta White 3/Color Black

© Kodak, 2007 TM: Kodak



翠玉日記

全



1264.

君羊玉日記 廿八年三月

二十八年の三月末群馬埼玉二縣下の古社寺什寶調査を命ぜり
まゝに出發しし事なり同行者の保存會委員の片野氏と
内務局花本卯太郎の二人をといひて行ゆ 廿七日の二時九時地
五分の度東へ乗しし山下の博東場へ急ぐ此日定か
曇りし餘寒なり翌日午後二時ころ二河橋に着き直らふ
縣廳へ出て書記官と會談しし縣廳丸橋藤逸より以て
巡回の順序調査しし社寺数多しをいひて今も縣廳より指定
されたる市内本町と同日の白井尾旅館へ入りしるるすたふ來りし
時の記憶をとり返して考ふるも此の當のありしものと高崎のあり

年月を過て進み前橋の方へ漸々退縮するもの似たり如し高
崎は直接間接に官廳より利益を得んとするもの多くその橋を
純然と農民高田より作りて其計をうつして他は農民高田の振
興の結果に隨ふて其地を拘りて其地を農民高田の手に現
状ありて其地を現

廿八日早八時十五分汽車にて沈野より出て本車より馬車館
林町より午後五時分の後同所の終南山善道寺へゆく此寺は榊原康
政の香華寺なり其肖像畫幅あり絹本着彩より上り賛あり
六世孫姫路城主中大夫拾遺兼式部大輔榊原政邦書正徳三年癸
巳十月十四日とあり又本堂のくまへ壇を設けず東照官の画像を

安置せり紙本着彩より肩山大相國一品徳蓮社宗卷言道和大居士
と記し康政より一併領せりものと傳へり涅槃像觀經
曼荼羅羅三尊來迎像誕生曼荼羅及び普通のものあり
中釋迦左右十六羅漢の三幅の絹本着畫より頼元律師の筆とあり
傳へ偶々瓢形のうりし出軒と刻し仰を押し宮に於て柳洞院筆
と記しれんとあり人を知りて本尊は木彫箔置の弥勒座を新
らり寺を出し康政の宝塔をくく慶長十丙午年五月十四日春
林院殿上卷言見而大禪定門と刻しり同所のうり大宿町の天福寺に
りり今も廢寺同様より隣あり五宝寺より監理せり其殿堂は彫刻
多く復まはれり縣廳より修繕保存せりり先年よりかきりり

はまの寺の町をめぐりて三町許の麥畝の間より真言宗にて
本尊の歡喜天を祀せり拜殿より本堂に至りての屋根は雨に
びらびらとひたひたたる程なり拜殿本堂より透間あり彫刻を
施したる此ありて数多き宮大工のうらやま近小彫刻しよもの
てささるるもくもく二百年の足りとも先年磯辺に旅宿せし
一宮迄くふあり鷲の森神社より彫刻ありて見よ彫刻しよものありし
ちよ四の造りさきつる美術ありてさきよものありて俗悪甚し
庭築ありてちよまると金く円種敷のりなり本尊の歡喜天は小
二彫あり銀像一三寸許木像一五寸許もふも浴油を行はしむる

油ありて他より紺紙金字の法華經一卷弘法大師の像一幅をれと
見よふ足りありて是良郡堀工村の青龍山茂林寺ありて曹洞
の禪寺ありて開山大林禪師小田原の生散泉寺ありてを招き當國吉柳
城主赤井正光大僧越より師を開山とて伽藍を創りて三十八應仁三年
八月よりしよ此大林禪師一の徒弟あり名を守鶴といひ隨侍あり
つとめて能く師命を奉りてありて不思議あり此鶴更に老衰せず開
山滅後数代の住持あり元龜元年七代月舟和尚の時千人會を修せ
るあり此時茶所の釜多人数の用ありてつひつひつとありて釜
を堆積して其ありて何程汲出はしむるあり守鶴は六福を
を衆人にわつた故を以て分福の釜といひて又瀬の人終りに分福

茶室の名、遠近よりあり、後八代九代を経て十代天南青和
尚の時天正五年戊二月廿日、寺を造る、遠山環附、年九、新
らんとあり、右の茶、大蓋、遠山環附、年九、新
り、見ゆもの、三州豊川の平七、茶の傳り、彼、知る、稀
、此、福、茶、の、初、重、を、知、る、も、亦、り、大、永、二、年、後、柏
原、帝、下、し、賜、り、御、祈、願、文、書、慶、長、二、年、後、陽、成、帝、下、し、十、代、天、南、小
賜、ま、し、論、旨、を、あ、り、畫、幅、の、海、峯、筆、牡丹、孔雀、圖、唐、寅、筆、楓林、
圖、も、小、繪、本、着、彩、の、大、幅、を、あ、り、寺、傳、り、近、江、の、仇、々、木、六、角、承、禎、を
の、目、賀、田、攝、津、守、を、使、り、て、長、尾、漁、信、を、贈、り、十、代、天、南、和、尚、は
長、尾、の、同、姓、を、あ、り、て、歸、依、り、亦、原、り、漁、信、の、當、寺、を、あ、り、

、時、宗、所、在、り、あ、り、り、此、他、張、思、恭、の、十二、面、觀、音、牧、路、と、り、
、一、葉、觀、音、李、周、文、と、り、壽、星、古、畫、十六、羅、漢、双、幅、雷、照、女、二、幅
、葦、渡、江、圖、月、舟、和、尚、書、横、物、波、蟹、の、彫、刻、あ、り、端、溪、研、獅、子
、重、子、圖、交、趾、線、香、を、あ、り、無、數、西、湖、圖、屏風、双、幅、を、あ、り、り、と、取、り、
、り、の、あ、り、同、寺、を、出、り、赤、岩、の、光、恩、寺、を、あ、り、り、新、義、真、言
、の、大、寺、を、あ、り、古、經、古、具、を、あ、り、り、見、入、り、の、あ、り、り、の、あ、り、り、
、住、僧、の、あ、り、り、を、あ、り、り、今日、の、他、出、り、り、り、り、り、り、り、り、
、り、既、に、時、刻、も、四、時、を、過、き、り、り、明朝、を、あ、り、り、告、り、是、り、り、程、迄、
、字、永、樂、の、新、田、屋、と、り、り、宿、を、定、り、り、り、此、家、小、路、を、あ、り、り、向、り、り、
、客、室、あ、り、り、思、り、り、り、り、宿、を、あ、り、り、

廿九日曇朝と宿を出く光恩寺へゆく住僧は夜前遅く歸りた
るにやと付宝を出く置ざらん先木堂の佛像より見らんくともやうふ
君僧の開扉せりて本尊の不動像、地藏像、觀音像をともふ
皆尋常のものなり此他弘法大師像、藥師像、誕生仏の像をともふ
まも目ふくやうものなり方より入まは相溜塗のき蓋の莖の
蓋は蓮座と梵字を時給くしきを出せり蓋をひききを見
れば塔鈴、宝珠鈴、獨鈷鈴、三鈷鈴、三鈷の五種を納めり工作も
古くは見ゆれつものなり悉皆黒漆をぬらん鍍金あり又
な銅色のものあり知らんは惜しむことあり鍍金あり
しを何ものききやばとてなやあのおほい難き漆をぬらん

あらしと思ひまをりしき経巻は弘法大師筆なり般若理趣經一
全系墨字の瑜伽經一紺紙金字の決定藏論上下一紺紙金銀
各行の清兩條下卷一紺紙金銀字の新維摩詰經一全金銀字
の佛說阿維越致遮經の中一全金銀一行の續高僧傳の廿壹
一卷あり此外は古經切りしもの一巻あり人も知るや
金字銀字経より金銀一行のふりしものも宗良時代よりをきき
あく多くは今の二京よりものあり以上の経も其類なりわき常ふ
ききし殊ふり多き最りふりも新維摩詰經、續高僧傳乃
あきし珠しり他日の参考のため委細に調査し寺僧の語り
此地はとて貴族の住し所なり延寶三年の山を開拓し

たゞも掘出ししものありと(ハ)もと取出させを見ん古き兜(古)三銃
劍の附属の金具とありしもの数個あり朽腐甚しく其金味は如何なるを
各地に出る古墳中のものしかるべし是れ其類なる人一時出たりと
土仏の弘隆像ハ三寸五分の小像を裏(い)と云つ押印あり寺僧
武黒ふと同時のものなり其作風遙く後世のものなりと知る
同寺を出て新田郡太田町の義重山大光院ありと云ふ太田金山の吞
龍ありし寺なり即路幅を二小都會の趣きなり銀行旅舎
割草ふと多あり寺ハ町の右方小路ありと遠く法門を登り町に入り
数歩の地有た方松杉の充樹ゆは法門を入り二小橋を過るハ一門
あり吉祥門と稱し堂ありと木堂ハ慶長十一年東照公の祖先尊崇の

まありて是れものなり同國寺尾あり新田義重の遺骨を
たゞも改葬し奉請し鎮守府將軍を進贈せり開山ハ時宗
徳高を聞たり然譽吾龍上人より上人の鶴を捕獲し奉
西路歌し結せしんと云ふ通しを衣を上人より上人を徳隠
しはの罪を得し僧官を剥き守をたり上人を犯人を法味なり信
州河内の林屋に居り元和七年秀忠公より恩免の命ありて陽山と云
み年をいり五年目より齡六十六歳より罪人より身入りてこれを赦
ふと他善男女の信をかゝる者ありて其祈願を満足せり
まをいり信旧の依信ありて元和九年八月九日六十九歳入滅し木堂の西ふ
る丘上新田義重の廟工則に安んず由來此の如くあり古畫古仏像あり

無きハ勿論ナリ義重建久八年正月八幡宮ありけりなり願文同年月の彫
銘あり八幡宮馬上の像あり皆後々擬作せしものなり南山堂義重吞龍自作の
像あり是れ自作のありき也本堂の一隅に東照宮二代將軍義重の木
を安んず寶篋義重縮水着色の菅公像蓮花圖双幅享保六年二月七日
七世龍峯靈雲の奥書あり義重山風土見圖録四冊其他ハ觀智國師の
文徳川家の朱印文書ありなり皇太子皇太后皇后の行啓のありけり
此寺を行在所義重定めてけりなり寺坊の廣く且つ修飾のよく届き
たる富田裕ありを証し餘あり境内に名ありもの皆本堂の西あり南山
堂より西に方面あり此堂の傍に上野國大光院故信講碑あり三十年の
建設より重野博士の文あり是より凡ハ太田町の人中村淨觀蓮與寺

門藤八の三人看唱して大光院維持のあり故信講をたてし十万の灌
負より寄附せし金ありて五町八段餘の田地を購ひしを施入して永代
維持の資あり供ししを願末を記述せしものあり義重の願もまた同
し西の丘よりあり此傍にありし古松安永のころ風害より罹りし折を
たゞり伐りたるあり其朽目ふのり人寒き入りし葵葉の形をとり
たゞり寄異ありて一切を幕府に献し一切を寺に
藏す菅公義重山四十世遍譽在定の記文あり又自清樂翁
君のそとをかしを贈らるるあり一幅あり真蹟ありて歎か
千代かゝる義重契ありて委をわかれし葵の御代の榮を
とあり代とありし重れありし見ゆれしころんと誤るるあり

同寺を造るに郡世良田村の長樂寺あり此寺は徳川家より由緒
ありきなり寺傳に元ハ榮朝禪師阿東巡錫のとき新田義重の四
男徳川四郎義季禪師に歸依して一寺を建長樂寺と云ふ義季没
して寺背の文殊山の麓にありて數代ありて墳墓の地なり後頼康
甚しきを夏へ東照公天海僧正を再建せしめ寛永廿年成り
更ふ家光公の命に因り東照宮の社殿を造り長樂寺を別當とせり
る其神像ハ公在世の時天海僧正の仏工に命じて刻せしめ初め
日光山に安置し後此像ありて刻せしものを本殿に安んじ元ハ奥院
に安置せり奥院の宝塔を石造り改築せり時幸ひこの社殿
成りしに移してある奉安と云ふ寺ハ縣下有數の大寺とて古來

よりの什宝と幕府時代諸家より一の寄附とあり頗る多しマ
ハ後次より出せし見ら後醍醐帝の宸翰御消息ハ軍勢發行
云々の文あり宸翰ハ見ら後柏原帝の御印ハ木印を
勅永正と云ふ是なり是なり縮木着彩の釈迦三尊ハ慧心
筆と云ふ張思恭筆と云ふ二種ありハ普通なり智澄大師筆と
云ふ不動二幅と他ハ不動二童子像二幅あり星曼荼羅の双幅
十六羅漢の双幅旅勒像數曼荼羅あり此數曼荼羅と云ふハ
天台真言ありあり修法の時ハ敷設くものなり東山御絵所神田
宗庭の名ありて印ハ隆信と云ふ宗庭の祖ハ元和寛永比の人あり
庄七信定と云ふ代々宗庭を通名とて東叡山寛永寺の絵所と

山下小住、維新のころにハ業を継承し、其後ハ、其の如く
隆信ハ其六代ノ南ノテ法橋ニ叙シ文化文政ノ事盛ノ年トナリ新
ノ像トナリ、世ト多クハ此ノ如ク思フ此ノ景茶羅ノ限
リテ裏打ヲ厚ク折疊シテ、其ノ後陽成帝宸翰龍虎ノ三
大宇ノ例ノ草書トシ他ノ歎フモノハ、其ノ肖像畫ハ、牧翁和尚
ノ像トナリ、雲宗ノハ、其ノ贊アリテ、曆應四年ノ年号アリ、其ノ
ナリ、新田義重像ハ、此ノ素人繪靈室玄門ニ和尚ノ像、長樂寺覺
順ノ像トナリ、此覺順ノハ、新田大炊介義重二十三世孫源徳純謹寫
トナリ、彼新田次郎ノ代ノ人ナリ、筆者ノ傳アリ、此畫ハ、
觀音卅三身像三十三幅、山王廿社像、五秘密像、十五尊ノ像、十六善神

像トナリ、皆普通ノものナリ、良詮筆トシ、可翁ノ印ノ存
残ナリ、十六羅漢ハ、見テ足ル可翁トシ、名アリ、宗然ト良詮
トナリ、其ノ後、然可翁ノ禪餘ノ戲ハ、此ノ良詮ノ僧ハ
其畫ヲ專クシ、其ノ全ク別人ナリ、此幅ハ、其ノ能知
然可翁筆トシ、出山釈迦アリ、雷舟筆ノ達磨元信筆、山水トシ
トシ、其ノ林良トシ、花鳥無數ノ支那画ノ花鳥、群仙圖ノ双幅、其ノ
トシ、大名ノ書院掛ノ類トシ、是ノ如ク、其ノ最後ハ、出
テ、數幅ハ、佳品アリ、就中、其ノ雪窓ノ墨畫ノ蘭、其ノ名歎
至正玄默、敦祥二月四日作、劍蘭圖于于頃雲軒、雪窓

トナリ、贊ハ、柯九思、天台朱石、董朝宗、楊彝、清河張天英、酉庵、
醜

虞集ふく七人あり紙本半切といつても真蹟ともいふべし表装
も上純中朝鮮紗金文字印金も塗軸をうけたら頗る茶味ふかかつ
幅をう是より次ぐ陸復の墨梅あり浴敷ハ陸復とありし明木梅花
荘主人の二印あり紙本も雪窓より少し幅廣し次ハ無准禪師の像
画ハ他人より自賛よりとも次ハ涪水無款墨画の枯木寒巖図次ハ
孫君澤筆よりつゝ團扇形の棲閣山水双幅日觀筆よりつゝ葡萄双幅
無款絹本墨画の峨眉山水の双幅三貌院筆在花押の達磨の自画賛
ふくふ見よふまゝのものなり此他も狩野末派の画幅二三ありし記すべし
又ふく畧しなり古経巻古書類もふくふといふ何れも一巻
無量義経徳行品第一とありし見よ藤原氏時代の寫経として表紙
裏ハ砂子をまきし時々船に乗ると人物をうけたらありしものあり
他の黒貝より鍍金の獨鈷銅の五鈷木彫の五鈷双龍彫刻の古研
ふくふり木堂の仏像の皆新しき記すも足るものみなり寺を
出てもと曰境内ありしもの東照宮ハ到り神官菊池氏出迎て先
つ内陣をいりし神像を拜せし東帝座像も一又五寸ありし前記
の如く天海僧正の親し御在世中彫刻せしもの其年月の詳ふ
らぬと公の晩年の事ふくふ御像ハ四五十の間のみなりといふ
つね後水尾帝宸翰の額のものなりたの彫文あり

太上天皇宸筆 寛永十九年壬午夏天海大僧^正奏達而以令彫刻

とあり神宝の銀作りの太刀ハ梨子地菊と料時絵鞘とて了戒の銘

社前より其の燈籠二基あり寛永八年妹伊豫の文字あり火袋衣
の天人獨鈷日月ふくむ鑄せり又鐵の大燈籠あり其の銘を鑄せり

奉納燈籠東照大権現御寶前

秋元越中守藤原長朝

元和次戊午歳七月吉日

大工 中村沖次

元和戊午其四年一々日光の御宮の建つる翌年其の長樂寺の
建築成りて神像遷座の事あり俱に移す所の事一同社を出て
同村なる真言宗総持寺なる小刹あり其の古き義貞朝臣の像あり其を
以て其の古き出せし見れ古き門守の神(俗に矢大臣と云ふ)の像あり
興りあり早々其寺を出境町を經て伊勢守の古き所あり其の古き
二前橋より歸り白井屋あり

三十日晴午二時九時四十分前橋茂の原車より高寄山着り直らふ
上毛鐵道の午前十時茂東より乗り入り山名山下東へて天祐山仁
宗寺をへり其の佛事あり住持不在の事あり其の豫て見しと思ひ
居たり金井澤の碑山上の碑をいひて山を登り山名より半里餘
高寄山より其の線路を歩して其の古き所ありやうた手の藪
かき潜り入り山行を此碑より池村の多胡碑を係せり上野のこ
碑を稱し三碑其の外より其の古き所の考へて其の教種あり
榻木より其の古き所あり其の古き所あり金井澤より其の地名四方山を
わたり其の古き所の清水の湛く其の古き所ありて其の古き所あり
其の古き所の此卑濕の他の古き所ありて其の古き所の北の方の山を登り

果たさぬものありつもの世に造るもの、碑のやうな屋根根柢の土塚を
ゆるしし前よりあき、格子の扉を没せ鏡をうけたれとて、その方の壁
の破れももつて、経をうららけ、同行の懸属の村役場より鍵をうて
携へん、扉をひらき、内へ入ると見え、文字彫法の古朴なる、少くも更ふ
り古昔の地志上、字より貴重なるものあり、山上の方つら、いとも少しく
歩を進め、顧みれば、此碑のうら、い、の東方に古墳の發掘せし跡あり、つ
のうら、後見し、て、掘り、て、遺世の事なりし、と、いふ、もの、あり、て、
あ、く、又、知、る、人、なり、石棺の前面より、七尺け、の、奥、に、石、を、塞、ぎ、
小石佛二軀をむら、の、發掘、以、て、何、人、の、か、取、獲、つ、もの、あり、也、路、より、山
中、を、や、南、の、う、ら、廿、所、の、け、の、山、上、に、碑、あり、ち、よ、の、階、瀑、を、た、り、見、終

り、て、吾、井、町、より、出、ま、り、り、多、胡、村、大、字、神、保、の、カラシナ、神、社、の、ウラ、案、内、
せ、ノ、縣、爲、り、よ、う、の、知、り、て、ノ、わ、十、四、五、町、の、あ、り、ん、と、つ、つ、ふ、及、り、て、一、里、許、
り、あ、ま、り、の、う、ら、の、程、より、暮、か、り、て、る、と、い、ふ、山、行、の、疲、れ、を、い、ふ、ノ、甚、
社、より、い、そ、か、く、ノ、例、の、神、鏡、の、外、に、什、宝、と、い、ふ、物、あり、と、い、ふ、其、神、鏡、
の、地、誌、其、他、の、もの、も、載、せ、る、もの、故、取、出、せ、る、と、い、ふ、鏡、より、あ、り、て、
懸、佛、より、圓、徑、三、寸、表、に、鍍、金、と、い、ふ、文、珠、騎、獅、の、像、を、中、央、に、し、
服、侍、の、四、軀、あり、の、僧、形、の、人、錫、杖、を、も、つ、と、い、ふ、又、尾、聖、を、い、ふ、ノ、
人、も、あ、り、て、下、部、の、左、右、に、あ、り、た、の、文、字、あり、

小勸進清原國包

大勸進惟宗入道

建久二年太歲十二月廿六日戊

源大将頼朝

とあり佛像のそとへは鎚出の少く彫刻したるもの文字のそとへは
おんたものもて佛像の時代を異にする著しく其仏像の
鎚出の足利時代中より元分るん此外に見るものあり
とありふもの山路をたゞし吉井町に吉井館とありし
旅館へ入ると午後八時過ぎにありし

廿一日晴二前七時吉井館を出て徒歩池村に至る多胡の碑のありし
ころ人家のうしろに九三百坪ほどの平地に清くはらばら
とあり花木少く植液あり碑は瓦葺の方一間許の
建物のうしろあり二段の基石あり維新後この地をうへて
かつた時ふとありし地は同じ地中の少しく北の方の

榎の木の本ありし此木の朽倒し古くありし碑を損す
とあり移し趣此地の掃除あり後面の農家の老爺の
語る處より此碑村の所有の如くあれし村より内務省の所轄
とあり省より一向ありし知れし行違り知れし
村より只古物の大切なるものとして注意し居るのありしとあり
四尺一寸七分横一尺九寸五分あり此建物のうしろに手球をの圓石多
くありを汗し問ひ此石より碑のやうに置きありし其基石を
後せんれはありしとあり此圓石大ききも同じく形も圓滿あり
ら妙ありしとありとあり石の老爺の知れしと問ひ此處より南の方
一里許の地へ八束山とありしとありし此碑石と同質の石は其

山ありてハカモを不造して方人建たると云つて方を見ても山
名へ出流車ありて一の宮山下車し歩くと貫前神社に至り即ち
上野の二宮なり神官の曰此御神ハ香取神宮の神と同一と経津
主神あり此國土を治むる信濃の諏訪の神を帰順す其銚を
扱て此處よりつりて扱銚明神と稱へ奉りて入るは其の誤
りありて此の事十七八年のころ病疴を養ふる磯邊の礦泉
のいふ時此の事をいひて聊か考へてありて磯邊紀行も
記し和名鈔ハ甘樂郡貫前郷ありて奴本乃佐と和名をいふは
佐字を脱したる又佐佐と略して佐といふはありて
然るも同書同郡の中ハ扱銚郷ありて和名ハ法也れども是も亦奴佐

佐佐といふは文字とた人か同一といふ人の御名の二所ありと
も其のちありて貫前ハ扱銚といふは其のちありて銚をいふ
もの思ふは銚を扱て此地にたるといふの妄説をいふは至
りて経津主命を書記ハ師靈ともあるハ神劍の威徳をい
つて名つてのちありて師ハ字書ハ断物声とありて其切をいふは
仕快といふは俗語ハツツリといハツサリといふハ切断の速
いといふは古語のツツリハ此御神のものありてハ續日本後
紀の承和六年六月の條ハ奉授上野國元佐扱銚神從五位下とありて是より
後屢ハ御位を進りて延喜の神名帳ハ正一位とありて是より
半里許東ハ鷺宮村といハ村ありて是ハ鷺宮明神といハ神社あり社

ハ大まかぬぬと彫刺をいけけはた宮殿ソクソク社の三則より商家
みん建つとも年々一度農蠶の蒸具其体と愛つて市ならて珠の外は賑ふ
と旧社旧神官の尾寄其法をわし此御社の神の二の宮の神と同跡入
ましても一宮のたゞ在りしるる神勅のわし移りのいしをも
土地の者はその旧地を存して同く神社をそと齋祀イッキコウりしもの即ち自是より
まゝ一宮の先宮の先宮神社と傳つるつら踏宮のは誤りしや
みちつて村名もつら土地人の此神をいさゝ様とて入来りしをいさ様の神
主と傳習つら我が家の苗字も本尾寄とてつらつらつらつら此珠
取ありけんは是も本誤りつら心喜の神名式は甘樂郡二座大座貫前又キサキ
神社名神宇藝神社と見ゆまは此路駕宮の一座と記せる宇藝神社は

らひし思ひんれと式一處に合せはせし所を珠とせしをもいふ
又和名抄に同郡中の貫前又キサキと技鉾又キサキと文字とてち人同く郷名の二所は
江もあつて同く神の二所はたつらつら著きありしを技假字とて
貫ツラくの又つらつら又キとつらつら二則又キつらつら鉾又キの假字ありし年は珠と
切尖キツサキの鋭利ありつらつらつらつら鉾もあつらサキとつらつら一宮の神官
り貫ツラ二則技鉾を別々つらつら説けし古き傳つらつら誤りし勿論ふ
つら社務所つらつらつらつら銅の鍍金の棟札とつらつらたの如

當今上皇帝

當國按察大納言

神主 利氏 行氏

當將軍源朝臣尊氏

聖阿闍梨慶源

貞和五年 戊十二月八日

縦九寸横一寸五分より上下の隅に釘附せしむ穴の跡あり偽造あり此時
 代に據る大納言(使の字ハ暇せしむ人し)ふと入者あり當將軍り亦
 いふ夫のいふより貞和五年ハ南朝の正平四年ありて己丑より干支
 二一年の差あり次より鏡を見せしむ大さ尺前後のもの三面ありは
 百五十面ありしむ一も見しむ不足あり神樂渡御のいふ旅所は是れ
 古画展風一雙徳川家奉納の品より最も貴重の品ありふといふ
 出せしもの砂子地極彩色の源氏絵の仕込屏風あり新田義貞の鏡と
 といハ桶川胸の番具足のゆきもの信玄の寄附あり鏡も草包といふ
 ありその他も見しむものあり神殿入りしむ一孫しむ社内よりいハ古き廿六
 歌仙の額拜殿しむけありふ給ありしむ書ありしむかきふれハ取あり
 せしむしむの裏ありの如しむけり

上州技鉾大神宮寶前

御造管依 征夷大將軍源家光公致命也

寛永十三年九月九日

奉行 小幡孫一郎平直文

岡登甚右衛門尉藤原景親

三十六枚仙額

畫工 狩野久三郎

敬筆 大橋入道式部卿法印龍慶

狩野久次郎ハ其傳を知らず大橋龍慶ハ長左衛門重政より即ち
 大橋流の祖幕府の書吏あり少しく解しめしむ思しむハ重政寛文十二
 年閏六月晦日五十五より歿し墓ハ相州鶴沼の空來寺ありしむ二三の書

香雪工端しむ
 大橋重政ハ其名
 ありしむふしむ
 ありしむ山後
 ありしむ其父重保

ふんし重保正保
二年六十四を殺し
たれ其出生ハ東
天正十年ハ一々
寛永十三年ハ辛丑
ノあり

あり是より況さして逆算をれば元和四年の出生より寛永十三年を
其十九歳とあり此時代^{の謂}は早く稚髪してありともふんしと長九
衛門重政の名も高く聞ゆふなり十九歳以前ふりて此時ハ仰ぐ入道し
て式部卿法印ふありて早き不遇なるありぬまは二三の書
ふふ十五より寛文十二年ノ後すもつふ誤りありと思はるるあり考ふ
て其ありたれと此類もてつ所ハ向キと論ゆ書も亦真蹟ふんしと
本據より他を伺ふも至當なりと云ふも此社ハ元前ふんし如く頗
る古くよりの鎮座ふんし寶物も然るも人のあはき苦ふもむけ
ふ無きいふも或土地人まはつりの神社も例もつ人もいふも社も
別當ありて権カ僧の手ハ歸し神官もふ甲斐も育まふれし神

佛混^清離のふありて時の縣令の過嚴ふりて束し神官ハ多年の復
讎言てふふ仙像を破却し経巻を焼くも其暴行甚かりて経ハ社内
ふ湯まのありて金を据りて一己畫のそ人積あけて焼きたる紺紙金字
経のありてたれもいふなり如此ありてたれも物ハ僧家の属ももの
のありて故に今残る物も見えんまものありて古くありたれ
寛永造営の時洪鐘も寄附ありて其鐘も沽却られ今もあはせ
て是よりそれより三前ノ銘文を寫し置きたれ出て見え^た三前の歌
仙の類と相並つていふまものあり

抜鉢大神社鐘銘

上野國甘樂郡正一位勲五等抜鉢大明神者延喜式所謂貫前神社

是也磯部氏世掌祭祀

稱德帝天平神護二年賜物部公姓

清和帝貞觀元年加授神位其後階勳累進遂推崇為此州第一宮

俗傳昔蒲谷荒船稻倉之趾賢木之鬻受示采瓠蓬天之儀神女

之昔拔諏訪之矛逐彼不順康和之年納敷基之劍而示其恙然兵革

早療疾病尤有求者祭則必效瞻仰不怠効驗如在賴義征貞任義

家伐武衡皆祈而有應贈鎮守府將軍大倉令新田義重居州之寺尾

城以源家嫡派有自立之志殊信此神駕踰駭故其家門不棄此毛馬焉

慶長年中

東照大神君繹其由緒嘗經營神宮及諸堂原本追遠之儀與今可謂

大矣靈威雖新風霜既古今皆布下

大君遠慕貞觀之芳躅近述慶長之盛事斯建神宮改造君年

宇締構盡功輪奐極美神德於是乎昭々矣豈啻一方一州之鎮

護而已哉爰架高樓以掛巨鍾其銘曰

上野大社 贊前明神 驅邪除害 鎮國利民 靈區既久

秘殿惟新 祭儀隨例 功驗呈真 允乳遠響 再祥必臻

風和雨順 世々無垠

于時寬永十二乙亥

九月吉祥日

奉行

小幡孫一郎平朝臣直之

岡上甚元衛門尉藤原朝臣景親

權神主志摩守磯部氏貞

願主

聖主 天中天
迎陵 加声

征夷大將軍從一位左大臣家光公 敬白

奉造三一宮 按鉾大明神御寶殿之則

哀啓 衆生者
我等 今 敬礼

寛永十二乙亥霜月二十一日

とありし由あり記文中も昔蒲谷とありし社地の舊名ともいふも低地
もと迄門より数階を降りしれは神社りありし社寺とも大抵高燥
の地を擇むを常とすよ此處は門前町とも申地とも甚異様あり
やうりとも神とありて社地を定めしものともありし社務所を出
て同町より登り流東あり高堂ありて下東して同市内通町の浄土
宗大信寺ありて先づ本堂ありて見ゆ本尊旅籠三尊は木彫箔

置地藏の座像もやうな同様ありとも普通の作とも不足らば此堂
の天井は天人をうけり周溪筆とありて華亭吳觀畫學博士ふ
との仰ありていふ人々詳ありて畫風は少し浮世絵の趣を有しもの
如し紙本着彩の涅槃像大幅は文化元年の寄附ありて畫も亦新
うし絹本着彩の旅籠三尊は例より因りて寺傳慧心筆とありて只は
そかけしものよりいへり内し着色畫の大幅雲中旅籠は後畫風の
もの引攝旅籠山越の旅籠ふとも尋常仏畫師の筆ありて見ゆは
そのなりし絹本の薬師三尊十二神將の一幅は三尊を全彩と他を淡
彩とすし下郊に法橋得應の歎あり此人は京都の仏畫師也
宇治平等院釣殿の十二面觀音の麻絵うけをうけし本願寺ありて

山旅隨像をたたり皆さかろし定宝の年号ありし法眼とありし古
畫備考に記されし法橋とありし定宝以前の作らざるを知ら絹本墨画の雪
舟筆壽老の摹寫のものなり維摩像あり是れ東昌池壽の款ありし
其傳を知らし仰る池田壽とあり仙其堂の梅関久し此寺に逗留あり
かものありし夏山洗雨の題辭あり米法山水の大幅ありし頗る
出来り又稚松を着色ししけし杉戸墨画石蘭の金地小襖四枚あり
つとむるありし此寺に駿河大納言忠長卿の墓ありし聞きしをて見し本
堂の右方の奥より中をとりて其中より峯巖院殿墓あり裏に寛永
御逝去十九癸酉年十二月六日御造三定宝三卯年正月六日十一世心峯代と刻
しありしありし微雨降出たはしりて停車場ありし汽車に乗
り磯部より同所の鳳來館大手万平よりありし雨ありし宿
には浴客も多しありし静なり

四月一日雨より朝暈車をとりて宿を出妙義神社より磯部より
西の方よりありし二里ありし神社の所の町まわりの平地より車をとりし
町に入ると數十階の石段ありて社の其最高ありし天台宗の別當
の監理とありし社務所ありし御殿とありし輪王寺宮の御主退
所ありし建物ありし腕車を取らりし段を登りしより流ありし雨
水ありし社務所ありしありし社務所に入りし小憩し先
御殿よりありし陳列ありし寶物あり見し尊王息僧正所用の八龍鈴
傳教大師所用の塔鈴鍍金舍利塔木郎の仁王の小像弘法大師所
用の

五銖五銖鈴ふとあり鈴の類はいつふもあらず多く優りし絹本着
彩の兩界曼荼羅、白雲山中興長清法印像ふも殊なる點を
絹本淡彩の西行圖横物、妙法院宮御筆と、津の國のふれ春、多
ふもゆの秋、玄の図、體素の印、堯恕親王あり此御方、後水
尾帝第九皇子と、天台座主と、たけふれ、あふも、あり、畫風、
常信と、いふ、聖護院宮道見親王の秋、り、畫一首の横物、家細
公の枯木、免の墨畫、一幅あり、隅寺心經一卷、佛界卷物一卷あり是ハ
古ぞ佐將監筆とありて其派の人の筆ふも、大佐家代々の筆つと
ハ見ふ、筆者ふも思ひ、いふ、時代も、畫も、のいてあり、一休
佛界卷物と、溟然、いふ、思ひ、其図様と、地蔵縁

起の断篇も、見ゆる人の何れも名づけ、り、か、名稱を、と、
ふ、探幽筆の滝見觀音、紙墨、幅あり、長落款
あり、たの如

寛文十三年五月日白雲山妙義權現為寄進狩野藤原

朝臣法印探幽行年七十二歳圖

とあり、安信筆、絹本墨画、瀟湘八景八幅對、六幅、二幅現存
一、探幽筆、素紙、老も、二幅對あり、由あり、幅あり、
は奉、白雲山妙義權現とあり、常信筆、白衣觀音あり、皆真蹟
あり、此度調査の類、人き、のふ、社務所を、門
外の方、少、古色あり、石燈籠あり、棹石、應安元年

又大冢小刺トト例ト云ふ事ありやうるれと判然と云此二則又古
碑一基あり其建札ト云ハ此をさしふたつと勉以と云ハ此の
自雲の山と祈らむ」右見嶋高德詠とあると碑面又此一首ありし
と云ふことありき今ハ後と云ふも又高德といふより云れは此山
此人の祈願せしむもおぼろしきなり其ハ何人のほくご云ふや
及と降くして妙義町と云ふなり群馬郡信社町と云天台宗光
蔵寺あり此寺ハ秋元宗の華香所と云ふ所あり靈牌
堂と云ふなり天井の雲龍ハ融川法眼寛信筆と云ふかけあり
本尊ハ木彫の釋迦三尊と云ふ刻ハ銅像の弥勒とあると普通を
つ古畫と云ふ智証大師の不動二童子像一幅十二天像十二幅と云ふ

ゆきと云ふ足らぬと云ふ秋元宗ハ日光山東照宮社殿の徳奉行と云ふ
當時幕府の権勢ありと云ふ家と云ふ將軍と云ふ拜領の古畫並物と云ふ
ともと云ふ又諸大名と云ふ贈遺の品と云ふと云ふ同家と云ふ就と云ふ
と云ふ知と云ふ後と云ふ事と云ふ番と云ふ寺と云ふ高附品と云ふと云ふ物あり
と云ふハ豫て刻と云ふと云ふ處ありと云ふと云ふ語ありと云ふ付寶の出展と云ふ
ハ寺僧のありと云ふハ願を遂げと云ふ事と云ふ御推察ハ遠く書ひて列と云ふ
寺寶といふ程のものありと云ふと云ふ何り取出と云ふ貴覽と云ふ供と云ふ
と云ふと云ふ奥と云ふ入りと云ふやと云ふ搬出と云ふ産と云ふと云ふハ慈眼大師筆と云ふ
と云ふ地藏尊の面貌を除き他を細察と云ふと云ふと云ふハ一幅ありと云ふ
壬生寺地藏尊御拜寫と云ふと云ふ時代と云ふと云ふと云ふのそれと云ふ見也

と真蹟と云ふは、雪舟筆雲中陀像、紙本墨畫
より雪舟行年八十二歳筆より上下より補足のあり、
紙本墨畫の東照宮の一行、曼珠院宮良純法親王の
御筆より疑ひなく、又絹本着色の十二天像十
二幅を出し、見せしめ尋常の仙画師のやものみを取
らざるは、探出齋筆の中一葉、觀音左右秋草の三幅、對
同筆の中白衣觀音左右淡彩山水の三幅、對より前のハ
四五十歳比のもの、次の晩年のものも、二前の見たり、同寺を
あて、同郡總社村の宗元總社の總社神社を、社の大きき
かし、これと什寶より、まゝの二物あり、その一の懸佛を

見せしめ、兩部の時代より、神跡より、内陣の納り
あり、中彫文あり、たの如し

旅勅菩薩 上野國群馬郡總社宮

所奉鑄玉御性躰 小島美作守定吉

天正十四丙戌年三月一日謹言

同社を、あて、二前橋の旅宿へ歸り、雨より、降まると、車中のわ
り、いづれ、あて、

二日夜より、降を、雨を、や、空より、雲霧、雲間より、
目、細澤より、瀬川行きの馬車、あて、

川とらるるりい町家つれた小部合のてまらるるもまらるる小部とらるる
とらるるまらるる路を右ふらるる路をまらるる沼田つ通る馬車を
あまらるる入らるる小憩のらるるあつらるる道路ハ利根川を
見らるるまらるるらるる石ハ巖山岨まらるる隧道をまらるる
川まらるる道路まらるるまらるるまらるる沼田町ハ幅産まらるる
まらるる利根郡役所まらるる誠後居まらるるまらるる日取の家
鍛冶所まらるる正覚山寺人のく浄土堂まらるる正應元年沼田三郎景
長まらるる人の家まらるるまらるる明治の初まらるる大まらるる
まらるる例の慧心まらるるまらるるまらるる尊友迎線まらるる地蔵十王十一幅
まらるる繪まらるるまらるる時代まらるるまらるる見らるる第七卷廣玉の幅入

寛正龍集辛巳主祖春とらるるまらるる當時の住持の名まらるる絹本
着彩畫まらるる地蔵の幅ハ六道のまらるる畫マも尋常のまらるる
まらるる探出の中寿光左右松竹鶴の三幅對探雪の同圖の三幅對
山雪の中一葉觀音左右昇降龍の三幅對をまらるる錢目的
まらるるのまらるる本堂ハ木彫の旌旆像をまらるる境内仁堂ハ觀
音地藏間魔まらるるの木像をまらるるまらるる普通のものをまらるる寺を
まらるる東まらるる瀧川まらるる女途中まらるる雲深まらるる霧のまらるる
まらるる伊香保まらるるまらるるまらるる戸人カ東家あまらるるまらるる
見らるる女房まらるるまらるるのまらるる機あまらるるまらるる間ハ
まらるる湯治
まらるる煙
まらるる

と人ふくまのりといはく者勇を鼓し急き出つ此甲とひつと遠し
遠ハいとも取えあつたれと平坦なれり苦いものあり只あつても吹風
肌膚をささげたり寒きもささげたり路のむちの水深の中より穢りの雪
白くもささげたり雨の雨もささげたりと思ふは穢り気候の雪れ
るもささげたり温水もささげたり水もささげたりと思ふは穢り気候の雪れ
るもささげたり小川の流るもささげたり辛くもささげたり遠くけし
つらけて木葉を金たまふもささげたり湯室の建つもささげたり十餘間ほど
あるのち暖あり所ありとせむはいつても二階造りあるは豊つけり
みちも金たま武をたまふもささげたり二ふかきとて家を分けし
各室の構造浴場の設備して粗雑して函山鎮熱海とては
似る人もあつた暖祭りの調理もささげたりかきとて有名ある温泉
場あるといふなりと望む人もささげたり

三日綴而朝鐘泉取締所の役員もささげたり伊香保神社と堂内
と社との間の町とりの盡くともささげたり数階の名候の山あり社といふ
ちいさく社地もささげたり社務所といふ社といひて建つるも山家もささ
げたり雑沓もささげたりいふもささげたり貸本所の着取ある神職の西職といふ
しつとつたのりといふかきにはいひておせられも辞しとてけさふといふ
やと酒賣の大名もささげたり一品もささげたりとささげたり社のたも他のりも
いふもささげたり道もささげたりといふもささげたりとささげたり湯室の一人
とささげたりといふもささげたりといふもささげたりといふもささげたり湯川といふもささげたり内所の字並木

とる所の真光寺とて入る此寺は天台宗とて大寺とて之を經
の寺とてし其を少く天海僧とて井伊兵部少輔に
たつた文状も井伊兵部少輔より不考の定も文状元龜三
年壬申八月廿三日の信玄の寄附状もあり本尊ハ木彫箔
置の弥勒三尊あり新しく志く作るも往ある他より大
まのものを凡ハ馬車とてあらうとす取捨の歸り年終言のころ縣
廳より巡回調査のありしを報告し午後二時半の發
東より浦和へゆく河原の山をこへり停ま佛を縣廳への
申るありとて双方の便利ありとてふもあらうとあらうと八十年
六時過ぎりありとて

四日朝宿を去り縣廳へ赴き調査の方針を述べ社寺
付寶目録をとり出さる書証官を事官に遊々
と出勤せしむ本縣より見入るものありと豫期せしる處
にあり我も赴任のころにわづらひ巡行もふれとて
つたるもにありと披露するも度らるるありと語らる
是との実跡を固まると多くの人との後を靈講するもこれに
少くも寺傳するも重視を傳畫せしむ復たたつて
これよりしてて人を知りて又も同之れもらみ思懸け
りともあり其例なりとあり此縣より此公郡の慈光寺
生の報恩寺あり少くも志らるありと他は河越の長久院

本和尚の肖像幅を、絹本淡彩、もよき畫なり。此類、他にもあり。趙子昂の畫、とらひの、此寺に傳へられたり。又自賛あり。天倫和尚の釋文、真珠庵宗教の折帛古筆了音の極書、傳心和尚の外題あり。又、啟書記筆あり。龍見の觀音、雪舟筆あり。維摩船子あり。又、啟書記あり。一之、似しもの、維摩、金泥落款、船子在、即ちあり。又、阿旃の臨濟、徳山の双幅、三酸、図の一幅あり。又、僊可の即ち、能の畫あり。又、印施羅の出山、釈迦あり。絹本墨画あり。例の飛白多き画なり。力足らざる、絹本着彩の羅漢、明北の筆あり。是も、是も、文徵明の絹本、淡彩、山水、唐絵、無款の振威、八荒、圖、登龍、圖の大

幅あり。皆支那の仕込あり。絹本墨画の探幽の六祖、圖、常信の水禽、圖、寒洞、文の布袋あり。真蹟あり。又、細川の、大守、齋、茲の、絹本墨画の、松、川、晴、川あり。又、學あり。又、能く、狩野の、筆あり。絹本墨画の、岸、駒の、双鶴、圖も、真蹟あり。此他、絹本、紙、此寺を出て、同郡、尾、間、木、村、大字、中、尾の、吉祥、寺あり。又、天台、宗あり。佛、殿あり。又、紙、本、金、彩の、三尊、來、迎、像、兩、尊、曼、陀、羅、不、動、尊の、像あり。又、皆、普通のものあり。唐畫あり。十六善神像、荒神像、主人の幅あり。又、少くも、智澄大師像、誕生佛像、東照宮の神像あり。又、悉皆、筆者、同郡、三

馬東國古牧天仁元年三月日と小き板ありてそのを見せたり其
書体天仁時代と云ふは瀬戸瓶子一對時絵硯管など出たり見
ゆへに皆普通のつくりけり其の所は同社務所を出り浦和
の山口旅館よりなり

六日曇朝七時宿を出り馬東をぬり南埼玉郡大和田村大
字野火止の平城をへり途中をぬり野火止の野火のやまを
まわるとりてけり聞えり平林寺ありて大寺ありて寺域はく
大門（門のくは標示の建つもの）より総門まで五町ありて思

り総門の額金鳳山の三字ハ八分より凸凹富石火山書とあり
中門の額ハ凌霄閣平林寺の額ハ平林禪寺の四字より凸凹
ハ分体の丈山の書より當寺の開山の茂吉林和尚の法嗣石室善
玖和尚より善玖ハ京の万壽寺天龍寺より傳へて鎌倉の圓
覺寺建長寺より傳へて應安八年の春（同年二月末頃和政元す）當
寺を創より十四年の後康應元年より示寂より入雲州家の所
蔵より其の遺蹟より其外より傳へるもの稀ふ
り思ひより先を祈望し見るハ横幅より梅山瑞篁院
より法法より至徳三暮公羽九十三歳也前巨峰石室善玖より
あり次ハ法法の大横物より名ありて印三顆をわたり次ハ半切の五字

一行在仰の幅より何事の時代より得て購入せりとの又真蹟と入
りたるものあり二刷の二幅といはれり其の傍筆より次は文久年
中の賜牒の勅書甲より一ハ神照慈眼禅師文久三年二月十六日あり
一ハ寶覺仏印禅師文久三年二月廿八日あり此賜号勅書の全文ハ
御史の筆より只十六日廿八日の日附より宸翰より即ち孝明天皇の御
筆より足利末より後奈良正親町二帝の御全文宸翰の御見
たりと他は日附の宸翰より例より次は後陽成天皇の御
筆より老子像を出世古の牧谿筆より傳へ今紀州徳川家の
所蔵より一幅よりありこれより半身像より全
身像より入り衣より木筆よりして飛白より頗る古

とあり文晁本朝畫算系に縮摹して木筆の御画として載せ
たり紀州家の牧谿よりあり圖のよりあり記略より青
より楊枝より老子と稱より一ハ大阪天王寺に聖徳
太子の楊枝よりあり神像と思はれり楊枝かたは
あり紀州家のふ安信の臨摹せし一幅あり其
家より探出の臨摹せし見しあり其のあり名物
あり人の美筆よりあり此幅の管書
所と帳の題籤より照高院道見法親王の御筆額よりあり
あり傳来の由緒ありとあり青僧の記よりあり
あり幕府の名にあり松平伊豆守より宮家よりあり

然るるを堂上家ありて贈らるるを此寺に寄附せしむりありき
かゝるるを幅なり次は藤房卿の名なりは文を以て彼山林に
事之の六中元係次男との書入ありは大燈國師の筆なり
と云ふもいふも真珠庵宗恭の極朝倉茂入景順の極札不
ともありて虚堂墨蹟の横物なりき墓塚見ると見るふも
明兆筆と云ふもの數幅あり寒山拾得十六善神十六羅漢と云ふ
羅漢の紙本着彩画なりいふも真蹟と云ふ人もありきものなり
十六羅漢の一幅は美野郡大雄山延仏禪寺旧什と云ふ寒山小
の安信の外題もいふも縮本淡彩の祥啓の達
磨円筆と云ふ紙本の養由基も皆ありぬものなり名仰あり

雪舟の市谷名仰あり雪舟の筆に細明筆といふも縮本
金彩の十一面觀音ハ寺傳牧谿と云ふも中なり日本古畫ハ
ていふも安信の伯達と外題つけし因相中の楊柳觀音像也
ありていふも移し見しに興悦在仰の紙本三幅對なり中一葉觀
音九右寒山拾得と淡泊清雅のものを見たり紙本墨画元信在
仰の釈迦紙本墨画探出の中一葉觀音九右昇降龍の三幅円筆の中
維摩九右龍の三幅円筆紙本淡彩の達摩安信筆の笛吹地藏探
元の山水双幅洞白の中寿老九右瀧の三幅ふも真蹟と云ふも元
查ふもいふものなり付宝の画幅は見たりいふもいふも然るも
更に持出せる唐画の林和清図古畫維摩像一之筆と云ふ中白衣

觀音左右寒拾の三幅秋月とるる釈迦像なる林和清の馬遠風と
りて手後山水中なるもの古画の維摩は在印ふれとるるを替
りて前鹿峰洞叔叟の名のりふ壽僧と三番とる印りて一之の三幅
りて常信の外題ありて此の外獨立の書の横物季信の
布袋岸駒の席ふりてとるるものふりて寺僧とる
彼松平伊勢守の墳墓を其所なる地なるもの長い敷石
のりて路を北の方へ行く所の盡頭一箇真く石を置りてあけ
たりとる南布とる墓石を建つ真くハ二段のなるるを併せりて
有餘五尺ふりてふりて諸侯の墓りてハ質素なるもの正面
ハ松林院敎乾徳全梁大居士と刻り側面ハ河越侍従松平伊豆守

信綱寛文二壬寅年三月十六日とあり是り智恵伊豆とる稱揚せ
るりて人の永暝の處りて思へりて追懐の念禁りてハ同寺を
出りてせむ馬車とるり浦和と歸り歸り休息りて後三時六分叢
の尻東とる北足とる郡大宮町字高鼻の大宮神社とるりて
有るり武蔵の一宮ふりて社地とるりて府下り遊山とる
りて度ふりて割烹温泉初めりていりて季の來りてりて寂
りて来りて空りてりてりてりてりてりてりてりてりてりて
就りてりてりてりてりてりてりてりてりてりてりてりてりて
りてりてりてりてりてりてりてりてりてりてりてりてりてりて
出りてりてりてりてりてりてりてりてりてりてりてりてりてりて

神社より平地より樹木繁茂し社地も広くてあり
社務所より付室を取出て見ると古く祭礼に使用する
見ゆ、鉢一柄あり黒漆の柄を有し身ハ笹葉様を箔を押
し下ハ短冊かきの箔置の札を所なる其中央ハ武州太田莊
大明神と記し右方ハ施主河内藤内五郎致白左方ハ文安二
年乙丑五月四日と墨書し其書体其時代かあるものあり
次ハ天正十九年十月附の東照公の文状以下十二通と鏡數面を見
る一面の裏ハ祈願武州太田庄就鳥山所願成就之故也長祿二年
戊寅八月吉日菅岳水郷國吉致白と鑄出せりあり菅岳水郷とあり
いつく考へると又幅四寸餘長六寸りの長方形の一面あり珍じ

裏を中央より少し上部ハ亀鈕ありて左右ハ向ハ鶴をあり
し其ハ桐の紋を鑄出せり是ハ黒漆の匣あり桐の竹を
沈金彫り蓋裏ハ御鏡箱霞霞致之者也神主大内民部源秀
成万治四年辛丑五月五日と記し自ら餘の鏡ハ時代も名も普通
も其他ハ白鞘の鈕ハ振瑪瑙質の曲玉黒曜石質の石簇あり神
職の蔵品として絹本墨画の探出の龍の一幅白鳥鹿の茶碗あり
社務所を出て歸る途中境内ハ其の碑石ありを見し土旅上流以南
修治告成碑と刻し長文を鑄りて就てハ文ハ服元喬書ハ長州
東陽津田恭之とあり夫より其の傳東場ありて汽車あり東中
より祭りの行厨ありて定腹を懐き久喜の傳東場より遠

し下東し久喜所の字本より度の甘棠寺へ入此寺ハ臨濟宗より
山号を永安山といふ足利政氏の創主より度開山の貞玄殿和尚といふ入
りし付宝をより出さむたより開山吉山道長の像一幅あり吉山道長の
即ち政氏の法号より縮本着彩畫より剥落其中心より賛あり瓦の如
く滑りたり

相公自ら主閣東祝髪令帰佛法中珠重閣浮提壽考吉山元
是福山翁 右閣東將軍法諱道長字吉山請壽像賛謹
奉賛 永正龍集蛇見之歲四月初吉住山建長玉隱釋沙
門英嶽滿九十書目于聴松軒

勅 特宗猷大光禪師 甘棠山以丘自書

とありまゝ遺愛院肖像の一幅あり政氏の夫人あり此幅も
亦たの賛語あり

大圓鏡智照無遺々愛容顔八字眉真相本離男女相
幻身東海比丘尼 遺愛院觀溪理々賛語天文十二癸
丑正月初五日 五葉山蘭室叟昌奕書

まゝ開山貞玄殿和尚像一幅あり下山月庵作と款あり又夢
窓國師像自畫賛より幅ありこれよりかゝる縮本着彩の
かゝるの羅漢像一幅あり信女妙智施財畫の文字あり古法眼筆と
りし中峰像雪村よりり達磨皆よりり王若水よりり縮本彩
畫の蓮鷺ハ永真の外題より趙伯洪筆よりり叙也三尊像

ふたつ、新澤より東へさかへり、腕東より入間郡小手指村の北野
神社つらへり、新澤よりわたり、つらへり、小都倉をふせ、他より町
幅より廣く、よひ、あつ、あつ、此日、月、ふ、何、度、と、つ、と、布、日、と、
おの、町、家の、之、則、と、假、お、屋、を、し、と、い、ま、る、者、を、送、具、お、る、物、桶、新、陶
器、と、い、は、は、る、者、を、存、す、の、の、流、り、な、く、店、を、つ、ら、へ、た、は、ふ、馬、車、と、あ
る、物、置、の、を、お、爺、の、い、ち、地、の、産、物、と、い、つ、ま、る、と、つ、結、締、の、木、綿
及、物、を、お、る、店、よ、白、野、ま、と、い、ふ、は、ら、の、娘、だ、ら、の、継、金、巾、の、湯、素、を、あ、ら、い
ふ、る、屍、が、あ、り、て、是、れ、と、い、ふ、は、ら、の、聲、を、あ、ら、い、ふ、の、い、つ、せ、ま、か、つ、い、
賑、か、く、東、を、通、ら、る、と、い、つ、ま、る、と、い、ふ、町、を、出、て、あ、ら、い、限、り
ふ、く、度、も、反、敵、と、い、ふ、小、手、指、原、の、戦、争、の、ひ、つ、の、事、も、思、い、い、へ、
ら、る、北、野、神、社、と、い、つ、ま、る、と、い、ふ、社、地、の、廣、く、れ、と、宮、の、い、ま、で
大、ま、と、い、ふ、神、職、の、い、ま、と、い、ふ、社、地、の、有、き、を、問、ふ、は、何、り、あ、り、
と、い、ふ、天、正、十、九、年、以、來、の、徳、川、家、の、朱、印、文、書、數、通、と、天、神、録、起
の、懸、幅、の、や、ま、と、い、ふ、社、地、の、一、絲、と、い、ふ、東
の、ま、り、川、郡、三、ヶ、嶋、村、の、村、社、中、氷、川、神、社、と、い、ふ、神、職、と、い、ふ、社、地
つ、ら、へ、り、の、い、ま、と、い、ふ、人、と、い、ふ、い、ま、と、い、ふ、年、若、き、ふ、似、と、い、ふ、い、ま、と、い、
や、り、と、い、ふ、此、方、の、い、ま、と、い、ふ、の、聞、き、と、い、ふ、い、ま、と、い、ふ、物、の、い、ま、と、い、ふ、い、ま、と、い、
い、ま、と、い、ふ、い、ま、と、い、ふ、い、ま、と、い、ふ、い、ま、と、い、ふ、い、ま、と、い、ふ、い、ま、と、い、
ふ、い、ま、と、い、ふ、い、ま、と、い、ふ、い、ま、と、い、ふ、い、ま、と、い、ふ、い、ま、と、い、
り、と、取、出、せ、と、い、ふ、見、れ、い、ま、と、い、ふ、匣、の、内、に、あ、り、い、ま、と、い、ふ、日本、紀、の、古、寫、本、十、八、冊、あ、り、

らる北野神社とていふ社地の廣くれと宮のいまで
大まといふ神職のいまと社地の有きを問ふは何りあり
とて天正十九年以來の徳川家の朱印文書數通と天神録起
の懸幅のやまといふ社地の一絲といふ東
のまり川郡三ヶ嶋村の村社中氷川神社といふ神職といふ社地
つらへりのいまといふ人といふいまといふ年若きふ似といふいまとい
やうといふ此方といふの聞きといふいまといふ物のいまといふいまとい
いまといふいまといふいまといふいまといふいまといふいまといふいまとい
ふいまといふいまといふいまといふいまといふいまといふいまといふいまとい
りて取出せしを見れい匣の内なる日本紀の古寫本十八冊あり

其末の奥書をくくん應仁三年正月吉日神祇道惟受一人吉川
源十郎源從長とありて其時代のものなりゆ包物のうらうの酢
谷のやうなるまゝ存ふ長久二年辛巳月日中冰川と拙く彫つて
もの鳥蛇白蛇圖のうらのふくさへ見るとまゝのふく神職のもの
なりしりくくあふ問きうむと元の毒ふまのうらひをうらひ
くぬ道くく車夫の語くや神主の姫君の狂人まゝく人せむ
うら今日見ると神主殿の洞子くくくわうふく傳説くくくわ
くくくくくわと思つてくくくの新澤くく流東くく河越くく
河越町内の字南町くく養壽院ふくくく曹洞宗くく山号
を青龍山くく境内くくく寺あり付室くくくはくくく

あふくも苗地内くくく日吉山王社の拜殿まけくくものくく
額ありてあせくく見くく書画もくく光悦くくく三十六致仙ふ
くあふく中務の二枚くく致くあり中務ハ末あふくく年号
印ありてくく人の取り去くくくく別くく致の毛紙形
くくありて見くく狩野派の書画も致く元禄年間の堂上家の
各筆ありて寺僧くくく書画屏風一隻ありて見くく圖も
碓氷夜討くく都の町繪ありてあふく梵鐘くくくもの
くく見くくくくく堂内くくく見くくくく
くく鐘ありて其銘文ありて見くく此寺地もくく日吉山王を祀も
廢て名宗の別當寺のくく故ありて廢寺とあふく跡へてあふ

養壽院のついでに光悦とゆゑ致仙の額、其拜殿の
ありしものより久しき人傳せし山王の社、その寺地の王位ありし
よのふし、其沿革の大要をふ知ん、問て寺僧の知れ
し事、我寺の迄くち、移りし、隱るゝ、家
るゝ、鐘銘の如し

武蔵國河肥庄 新日吉山王宮

奉鑄推鐘一口 長三尺五寸

大祖那平朝臣經重

大勸進阿闍黎圓慶

文應元年太歲庚申十一月廿二日

鑄師 丹治久友

大江真重

とあり、ちを見たり、寺をある門外の右方の新らき小堂
あり、方九尺けり、主寄り、山王権現白山権現客人権現
と三行ふ彫所けり、額を掲けり、是れ因り思ひ、日吉山王社
を、養壽院を、遠なる久し、其後ありしを
、此此社を、僅ふ旧蹟を存せし、鐘
銘の文應元年、龜山天皇即位の年、今より六百四十六
年以前、夫より同町内の郷社、氷川神社、社地少し
あり、とあり、藩士の住り、と見え、家居

つを名張し社にたきとんし付宝とていふくふく文禄四年
あり酒井與七郎忠利の文状慶長六年本多刑部左衛門乃
文状狩野時信左印の八大龍王の一幅ありのうらまの社務所
をあたへ江戸所の旅宿に帰る

九月晴旅館有雙館をあたへ先づ三吉野天満宮あり清く社
務所あり祝く聞くる付宝ありのうらまの町内の大字小仙
波あり喜多院つゆくつゆ天海僧正の久しく住く處あり
東照公の靈柩より久能より日光山に移る時三日本寺に滞
留あり因ふ地内小東照宮の社殿を學ぶ程あり當時
寺域廣く大寺ありのうらまの今も縣下屈指の巨刹あり

つゆの靈柩より久能より日光山に移る時三日本寺に滞
留あり因ふ地内小東照宮の社殿を學ぶ程あり當時
寺域廣く大寺ありのうらまの今も縣下屈指の巨刹あり
三字の後奈良天皇の勅額宸翰土佐光茂筆とて職人畫の
屏風一雙天海僧正の文の教通あり境内の鐘樓あり付たる鐘ハ
正安の年号あり古鐘なり其銘ハ

武蔵國足立郡茗崎山 依悲母奉鑄之

正安二年庚子二月十六日 沙弥慶願 大工源景恒

つゆの鐘はありのうらまの移るものを知り東照宮を
神佛混淆廢止令後布のうらまの別をて事あり境内
地を区域とてなり日一地つゆありの寺僧の案内より社政ハ
ゆき神威とて今も魚の酒查せしと思つ拜殿の致仙の額

を取はつて移り見し此額ハ岩佐又兵衛の傳をたゞし証とふ
と人するのこそ浮世又兵衛と稱して風俗畫ふ名ありハ二代目勝重
も其初代又兵衛ハ土佐勝以て得り独りたゞものたる此人越前ハ成
長し京におきて土佐家よりハ一種獨得の妙あり其土佐ハ珠とて所
の面貌よりありハ此種の畫風を研究する人ハ能く知所あり其
子孫今も越前よりあり此額よりその証とて書類も現存す
とありたり額の裏書のとけりきハ始終の一枚即ち人磨中務ハ
して他の三十四枚とも繪師勝以とあり額ハ堅長の板額縁より
裏ハ黒漆とて鍍金の隅金具をとり銘ハ朱漆とてかきあり致
の筆者ハ誰ともい傳へず曼珠院良純親王のせりせり
しりわあんとて其裏書ハ

寛永拾七庚申年六月拾七日

繪師土佐先信末流岩佐又兵衛尉勝以圖

とありハ細く細く此宮の内陳よりハ鷹の鷹の
額ハ二面あり極彩色とも筆者ハ知れぬ狩野派の畫とて
へりか末の一面ハ左のやうに

奉獻上繪雁鳥十二睨

寛永十四丁丑曆九月十七日 阿部對馬守藤原重次

此額ハ金地とも縁より金具とも世六秋仙の額よりハ鄭重に造
らるるなりてを見ても社を出入りするもの中院に入ると永祿末

の繪旨五通一巻永正年代の過去帳智澄大師の筆といふ
不動像繪本全彩惠心筆といふ廿五菩薩來迎像といふ
をあげても是といふたゞといふは價値あり本尊ハ慈覺大師
作の不動尊といふといふ本堂ありといふ元作といふといふ
といふといふ出で江戸町の旅館よりといふ午餐をといふ後鳥東
を呼ぶといふ田郡越生町の法恩寺といふ此寺ハ古義真言の古
刹といふ数年前の火災ハ什宝古記録といふ焼けといふといふ
行遺存をともあつて魚了洞査といふといふといふといふ
ハ珠といふといふ山号を松溪山といふといふ本尊ハ境内仏堂
ハ安ハ假建の僧房三室をといふといふといふ後鳥羽天皇

の宸翰の二幅ハ繪畫共進会の参考品といふといふ出陳され
博物館編輯の新撰畫鑑にも採用されといふといふ先づ
こゝを見しといふ清といふといふ繪本淡彩の高野明神の像也
生明神の像二幅をといふ高野明神のといふ年元といふ獵夫の姿
といふといふ天をもち大を曳きといふといふ像といふといふ部ハ蓮座をといふ
といふといふ継色紙形ありといふ文字ありといふといふ時ハ剥落し
かりといふ其後修整せといふといふ表裏ハ改めといふといふ文
字ハ一層をといふ清といふといふ漢溷をといふ後も多し
といふといふといふといふ高野といふといふ法のといふ火
高野護法御足者ハ血流是則多動也又信施住侶

日食時口傳心口故也

と云作らうとあり口を施さうといふとも淺得さうと云う^丹注生

明神像ハ如跡座像より是れより却て蓮座色紙形あり

此方の剝工造りとも甚しく淺得さうと云ふ多し

口伝此等口を施す決定。不必令送佛土の如之戒

放逸口伝口或決定。應之如之。使老

衆より致意するに生。口角口物神呪

今く又字の消えさうと云ふ口を施し浅く淺くさうと云ふ

部より口を施しう。面貌衣紋さう古雅殊勝のものあり

後鳥羽帝の宸翰と云ふも他の宸翰よりい傳う^仙致

像よりい傳うものあり口を施し浅く淺くさうと云ふ

口伝心まきものふまの洞查よりい傳う張思茶等よりい傳

本着新の文殊普賢阿南迦葉の像も亦他の教をい傳

まのい傳う寺よりい傳久三年頼朝より當寺より寄附せし

しものい傳う由をい傳ふたの文字あり時代を証

明しもの寺傳の妄謬ハ一目のい傳破らる

香徒等 金思達 草薫 金三 關主 永宣

王延 江界 尹自 万真

天曆二年庚午五月 幹善禪

天曆ハ元末文宗の時の年号なり。我後醍醐天皇の取字元徳

此左右十面觀音と藥師とあり十面二木の彫りなり古きものあり堂
の北は佳作なり程ありあり藥師又此より鈍作なり山を降りてその堂
に入り一行の人より此處の本尊を見せしむ一室の襖を開きかゝり入り
るれば蜘蛛の網の顔かゝる不整なり一歩退く時蝙蝠のひらきと飛せり
なる長押よりなり廢寺の光景なり盡すれども塵堆き板の間
をうつらり見しむ向いなり本尊は不動尊なり右方小地藏尊なり
左方にも凡作も上の堂の佛より又此より下はあり左右の棚あり
たゞ位牌五寸の小佛像四五祀ありれども取らざる記しなり程の物は
かゝりしむる信後徳代三人來り頻り侍せりことと謝し此方の要求
をせしむる寶藏の長持のやみ出り本より残りなり見せ給へり

こゝろはれを候今一戸外へあり寶藏とありしむるありあり
と訝しむるも其しは跡をき見れば柴藁の類をよのひ積込り
一の物置小屋ありしき竹小横棧よりなり戸の錠懸たれ一尺餘りハ
焼き破りしあり信徒の一人より持ちしむるなり過一月の未賊の來り
かゝり掃りし後に入りたれども柴わらふの外物ありと思はる幸いハ手
をしかせし出さたりしと語り柴を取除きせり小長持一棹をとり出
しし具は盡す存ハ入すぬ刻を仰り蓋をひきし先本宮のやうありハ
この宮を出せり是人ハ能知も阿倍小水磨の政文あり大般若經六百卷のうち
遺存を分百五十卷を納りしものあり多少の修繕を加へ此宮を造りて寄附
せしむる白河の樂翁公ありしとあり其宮の蓋裏ハ記しし白

享和元年辛酉九月 秋田 仇竹右京大夫源義和

肝煎 自河侯家臣 谷 文五郎 文晁

秋田侯家臣 平澤平角 常當富

世話後柳川候家臣 西原新九衛門種和

備中堂岡隠士 錦江

巻を兩心に見てふ蠹食ありと裏をうらふ紺色の表紙ふと改めしと
見ゆんまかた換へ虫の入りも多かりし此数巻を一々改めしと改文の
具足せしハ只一卷ありし此修繕のうらふ文晁の加はる樂公前公の命あり
し仇竹侯の名をゆかり留守居役の平澤のうらふと柳川侯の家臣の又
または自河侯の縁族ありとわらもふ力を添へしともの此ありし

の消息を知りし此外ふとと思懸けぬ珍ありしと嚴嶋の納後ふ似
たり法華經廿八品各筆のものあり其筆者目錄より一卷あり料紙は
砂子紙の時代も先分りぬものありて死のやうに

一品經書寫次第

序品 御所 方便品 五條大納言

譬喻品 仁和寺法印 藥草喻品 別當僧正

授記品 妙高院僧正 五百弟子品 元大臣

信解品 宜秋門院 寶貝塔品 十樂院僧正

勸持品 如意御前 涌出品 太政入道

法師品 禪林寺法印 提婆品 吉祥御前

介利功德品	法性寺殿	法師功德品	九條殿
安樂行品	大原僧心	人記品	法性寺大納言
壽量品	二位殿	隨喜功德品	法性寺法印
不輕品	持明院大納言	神力品	東光院法印
囑累品	春日殿	藥王品	萱殿
妙音品	嵯峨入道	觀音品	東御方
陀羅尼經品	大原法印	嚴王品	いとく
勸茂品	幸御前	普賢經	宝寿院宮
無量義經	芝上僧都	阿弥陀經	姫君
般若心經	堀川大納言	化城喻品	禪林寺法印

文永七年十一月廿日注之

目錄ハ各品の順序ハ一頁一頁ツクカキテ互ツク筆蹟ト目錄ト
 對照シテ序ハ一頁一頁ツクカキテ互ツク筆蹟ト目錄ト
 又ハ其ハ龜山帝ハ如何ハ心多ク見テ向帝ノ宸翰ハ其ハ
 又ハ其ハ筆者ト今俄ラリ空アリテ其ハ後ノ考ヘテ其ハ事トセテ
 ノヤキハ白字金系黒字多クモ勸持品提婆品信解品ハ金系或ハ
 鑄注系ト上下ハ金銀砂子トハ何レモ表紙裏ハ致冷ノハ文字ノ入
 入ルル人記品ハ銀地ト群青系トハ文字ハ墨字ト上下ハ金砂子ト
 此時ツクカキテ殊ハかりト通出品トハ紺紙金系金字トハ化城喻品ハ紺紙

井の致とらふものありし文状も其まじき偽筆ありし事足らふ
長持ふ納めし是とありし事既に信徒伝代を先導する中ノ堂も釈
迦堂といふ山の中腹の堂をいふ所の昭りし時をふ少し高きうら
いけし處ありし事とて述べて堂の荒れを二戸の釘附ありし事
をら放ちて一行を拓き入れし堂中ハ佛具ありし後てふくハ中央ニ木
彫箔置の座像の釈迦一躬あり足利末代ハ作らり堂を出た左の方の
小高き處ニ鍾樓あり登り人き石段セ爾上りて危けし事とて幸しく
昇りしハ大キうらありし事鍾ハ陽文銘ありし事其銘ハ

奉治鑄 六尺推鍾一口

天台別院 慈光寺

大勸進遍剛昭金 深慶

善知識入唐沙門 沙覺

大工物部重光

寛元三乙巳五月十八日 此下二字をヤウを正 廢滅不分明ナリ

願主権律師法橋上人位榮朝

寛元ハ後醍醐帝即位の 銅一千貳百斤

改元号多ハ今より六百六十年はより以前のものなり此鍾といふの法華
經及ハ板碑の年号といハ彼是を併せたる事ハ貞觀年中ハ水磨り
大般若經納めし後のありし事といハありし事ハ鎌倉幕府のものあり
南北朝のけり程ありし事とハ榮朝といふもの如く夫より後ハ漸々

衰へたるも猶山林ふも多し所有したるも危りぬ維持し奉れり
か維新後山林の官有となり無祿無檀のありきハ竟つて荒廢
に至りしあり維新后取毀ちて下の堂も洪鐘ありとて鑄潰さ
まらざるも何れも寺人濫れり今の信徒ハ知れり寺人歸りて内
田屋より運いり行厨ハ晝餐の腹をくらり信徒總代ハ別を山
より登り本堂の入りを通きり歩し山路をたどり大河村とて入り
たり此路程一里半あり二里餘あり村の名の如く秩父
のさき流まゝ川あり此邊ハ紙漉を業とす者多く岸ハ吹たりの
小屋を設け竹箆を敷き漉るなり其堂座ハ三叉の川水ハ浸せりを取
皮を剥くもあり水を深く合ませしや水中ありて三叉の枝をたて居り
あり同村のうら宇大塚の大梅寺とて入りし曹洞派の寺なり寺傳ハ
後深草帝第三の皇子の御開基ありと尊牌ありと出るとしてこれハ
大梅寺殿ニ品親王聖慶大法師とありと只ありとのあり由渚とあり
ハ宮内省少輔皇子とありと認りしとて木尊釈迦如來の座像あり
るありちを出て小川町より車を佳ハ熊谷驛の但馬屋より宿を定
む此夜竹井澹如氏來訪し熊谷寺ハ檀頭あり是より同寺に通して
明日の便宜をけりてとて語れり

十二日晴宿をて出り竹井氏來合して熊谷寺入り寺ハ焼
失して再建の假小屋ありと未建つて見えず蓮生の墓ありハ
宝篋印塔式より遙く後建なり其傍ハ小木板碑のありしもの墓

ありて文字も見え信りしものあり此寺今近御正堂あり大寺
ふれと慶長比より蓮生庵とあり一字の草庵に過きしを幡隨意之
白道の三願して創し着手し家康秀忠二公の上人を信仰しなむし御
寄附あり諸人の亦多く力を致して初て蓮生山熊谷寺と稱するに至りて
れは蓮生山由緒あり宝物ありもの皆後より造り添へしものあり一見ふ
足るものあり就中持腹の堪ぬ平敷盛のかきを贈きふる平経盛
の返状蓮生子孫の遺状ありもの此時代の文章をも知ぬ者の偽作
より寧ろよありきことあり法然上人の名号の幅ふりしものあり
世間ありしものあり二幅あり授蓮生法師と旁書せしものあり偽
物を澄すやわりのものあり他は揚子より竹井氏の木堂再建の爲り

國宝ともありものあり大々好都合ありて蓋してありし實査の上を
ハ國寶候補とありしものあり同寺を出て同所の報恩寺あり銅佛の
地藏木彫の観音樂師とありし元作より夫より北埼玉郡成田村字箱
田の念佛堂よりあり熊谷寺の末院のありし其より特々寺と古
きより木尊の蓮慶作とありしものあり木彫の旅隠三尊
より熊谷寺の佛像よりありしものあり蓮慶とありしものあり脇侍の
ことより新よりありし同寺を出て大里郡仇谷田村の永福寺ありし古
義の真言寺より木尊ハ木彫の地藏より畫幅より西東曼荼羅十六
善神四社明神像よりあり支那畫の如意輪觀音願行上人筆よりあり
不動興教大師筆よりあり同像よりありしものあり紺本金彩の荒神像

ハ三童子を服侍するものハ四羅刹ありハ数々をとりて図り又支那畫の
秋迦阿難迦葉の一幅も見る見ゆれと國宝といふべき程のものあり
ちりてあり児玉郡上村大字金窪の陽雲寺ありちりて武田家の由緒
ありちりて信玄の文狀數通あり又信玄の身泳短籍あり歎ハ
更にも春のたよりをいじ花のかさりの夏衣あり

とありて信玄の名ありものより見る又同筆の若み鷲の墨畫あり大き
ありちりて上方印の上のハ大僧正信玄武田性印と刺し下のハ東西南北と左右ハ刺し
中ハ晴信と刺しちりて是も眞蹟とちりて又富士の横物あり武田信俊筆
とちりて相王雁鳥の双幅あり又狩野元俊筆と落款あり信玄と陽雲院主人
の肖像の横物あり元俊とちりて畫家の系統のちりて得た名の右旁ハ年

壽八十二歳とあり信玄所用とちりてかしの頭の赤赤地錦の筆手ありちりて
佛像ハ銅の聖觀音弥勒像ありちりて皆さき佳作ありちりてちりてを出
て木莊町の金鑽神社に詣つ社ハちりての構造ありちりて宝物とちりて寛永
のちりて領主ハ望原右衛門大夫の書て納りちりて云此神社の縁起一巻ありちりて
否ちりて棲門の額金鑽神社とありちりて樂翁公筆とちりて是のちりて見ゆ
ちりて馬車とちりて児玉町の嶋屋とちりてちりて

十三日曇朝暎東ありちりて名を出児玉郡青柳村の二ノ宮金鑽神社に赴く
社ハ山を負つて新築ありちりて社務所ありちりて清くありちりて宝物ありちりて義家奉納
とちりて翁の面木彫の人の首四つ是ハ貞任宗任と其臣下の首級とちりて奥
州征伐のちりて納りちりてありちりてちりて人を取ちりてちりて程のちりてものと腹た

ありて早ふつをて此社のまゝなる普照寺とす此寺の
天台宗より神社の別當坊ありとす本尊ハ木彫の十一面觀音ハ
釈迦不動を服侍す此此外ハ元三大師像ありとす凡作なり寺
のしらの社地ハ接し處ハ多宝塔あり其真柱の銘ありとす取出
たると凡の如く記せり

天文三年八月晦日大檀那阿保彈正金隆建之

ありき附記と云北武藏名跡志ニ賀美郡ニ重塔九輪ニ武藏國
賀郡阿保郷丹ノ莊大檀那阿保彈正金隆ト記載ヤリ燈明代ニ領地
植竹村ニ永母貫文ヲ寄附スル此塔神仏分離ノ際金鑽山大光普照
寺ニ附屬セシメありかの太平記ハ名高き阿保ハ此彈正の家ヲ也とす

出て見玉所より馬車ヲ木庄驛ニ至り夫より流石ヲ登り吹上り下車
しり馬車ハ北埼玉郡埼玉村の天祥寺ハゆいり二三町走らせ
し車軸折ると見え無きハ下車を済む名帰途の乗車をゆい歩し
て天祥寺ハ甲斐と遠く此寺ハ松平忠明はら大和郡山ハ創ましか
天保八年より移り郡山の創ま寛永年中あり古き物ありあり木寺の
開祖松陰和尚ハ神覺諦觀禪師の号を下賜せり勅書ありとす出せり享和
二年三月十四日あり此日附ハ即光格帝の宸翰あり絹本淡彩の顔輝の達磨
ハ圓座よりあり梅の策彦の鷺自畫賛扇面より徐熙とす着色の花
鳥の双幅より一牒の折紙あり例の大名懸物の類なり牧溪觀音ハ印月光
賛中峰墨蹟横川墨蹟皆より雪舟在印の不二雪村雪景山水ハふ

かゞ天寧寺愚中周及和尚の金山よと在る假字文の傍り口名の下よの如
き糸押あり絹本着色の釈迦三尊釈迦十六善神の幅より皆普通品なれど
を解くち行田の町口と歩くと後より馬車を吹上り歸り同所五時後の流車
と桶川と看し下車し同驛南端の田村屋にゆき此夜微雨あり

十四日曇相宿を去り旅車比企郡三保谷村字表より処の廣徳寺あり寺の
三保谷四郎のあつた地ありと云ふ第一馬鱗筆吹笛人物石田法薫の賛あり大
幅を出せり石田無準の師り南宋の理宗紹定端平の人の人なり古き
過ぎき書画とも信しこれあり真保のち地中より掘出せり古鏡一面
古鈴五個あり鈴は新し鏡は足利時代なり本尊五大尊は古より古
ねと作りしち江戸の護持院より移されしなり旅隨地蔵の像皆普通

あり寺背ふ古碑あり例の板碑の三尺許あり上は梵字一字其下は光明遍照とを
四行あり利永文永三年十月と刻せり土地の人と云ふ三保谷四郎の墓ありと云ふ
ありと云ふありと云ふあり北足尾郡河谷田村の泉福寺あり台宗の大寺あり
山號を東叡山と云ふあり僧あり知ありあり本堂を見り木彫
の旅隨座像あり目ありと見ゆるを取りし見ゆる腹したの文あり

同橋氏 唱信 〇〇〇〇慶

奉造主等身旅隨大佛師十佛同 〇〇藤原氏以丘

同平氏女藤原 〇〇尾并雜使庄信濃房口道

弘長二年四月十五日造之

とあり刀痕のありありと墨書しし年経し故瀆る字あり



ガラス使用